

3. 人と自然が共生する社会の創造

3 人と自然が共生する社会の創造

【1】環境にやさしいまちづくり

<重点化施策>

【1】まちをきれいにする（廃棄物処理）

現状と課題

私たちは、豊かで快適な生活を享受してきましたが、その一方で大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会が形成され、環境に大きな影響を与えています。

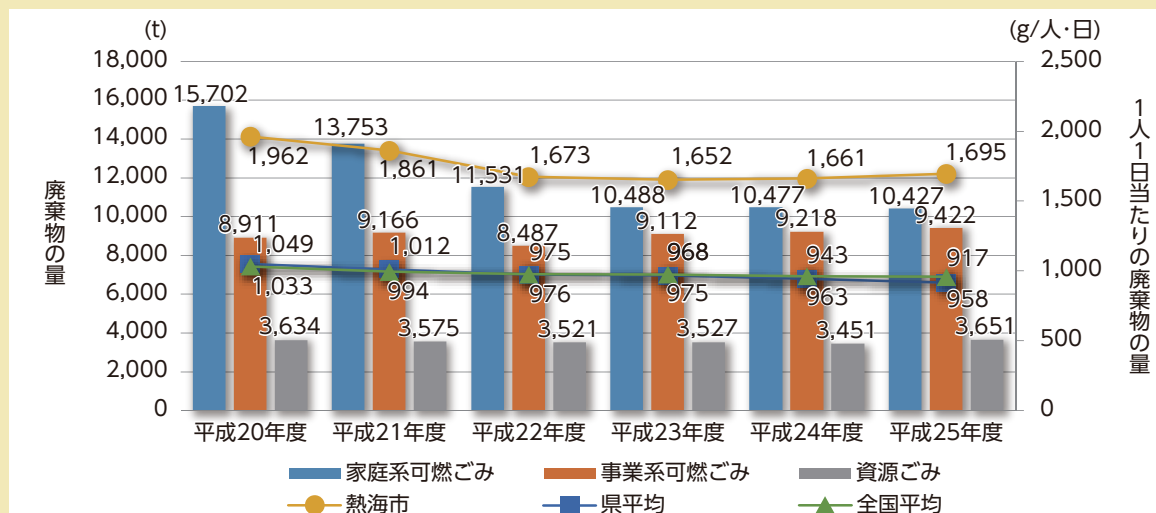
このような状況から脱却し、生産から流通、消費、廃棄に至るまで、物質の効率的な利用やリサイクルを進めることにより、資源の消費が抑制され、環境への負荷が少ない持続可能な*循環型社会（解説 P.93）を形成することが急務となっています。

本市のごみの総排出量は、ごみ処理費の有料化を開始したことや市民のごみ減量化への関心の高まりにより、大幅に減少しましたが、現在はほぼ横ばいの状況であり、市民1人1日当たりのごみ排出量は、静岡県及び全国平均を大幅に上回っています。

ごみに関する諸問題は、市民一人ひとりが自分の問題として捉え、廃棄物の*3R（解説 P.90）に取り組むことが必要です。これまでは、*マイバッグキャンペーン（解説 P.96）など市民への意識啓発が中心となっていました。今後は、「意識の向上」の段階から「具体的な行動」の段階に進むために、市民一人ひとりが取り組めるような支援の充実や地域における集団的な取り組み、市民・事業者との連携が求められています。

ごみ焼却施設やリサイクル施設は、建設に多額の経費を要するため、計画的な修繕や早期の施設整備が必要です。そのため、施設の調査・評価を十分行ったうえで、適正な処理体制と施設整備の検討を進めることが必要です。

廃棄物及び1人1日当たりの廃棄物の量の推移



資料：一般廃棄物処理事業のまとめ

施策の方向

- ◇ 廃棄物の発生回避・排出抑制を基本とし、再利用・再生利用の効率的な推進と廃棄物の適正処理に努めます。
- ◇ 環境への負荷を低減する循環型社会を実現します。
- ◇ 廃棄物のリデュース（排出抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）の3Rに取り組みます。
- ◇ 効率的なごみの収集体制を目指し、収集日の回数の見直しと、資源ごみ回収コンテナ設置などの拠点整備を検討します。
- ◇ 子ども会や女性団体などが実施している資源ごみ回収事業を引き続き支援し、集団回収の充実と拡大を図ります。
- ◇ 事業系ごみのうち資源ごみの分別を徹底し、再資源化とごみの減量を図ります。



施策の内容と主な事業

施策の内容	主な事業
ごみの減量と再資源化の推進	<input type="checkbox"/> ごみ減量啓発推進事業 <input type="checkbox"/> きれいなまちづくり推進事業
廃棄物の適正処理の推進	<input type="checkbox"/> 廃棄物の3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進
学校・地域・事業所におけるリサイクル活動への支援	<input type="checkbox"/> リサイクル関連法の順守・啓発
ごみ焼却施設などの維持管理と整備	<input type="checkbox"/> ごみ焼却施設の適正な維持管理

評価指標と目標値

指標	現 状 (平成25年度)	最終目標
ごみの総排出量	23,583t	21,225t
1人1日当たりのごみの排出量	1,695g	1,525g
資源ごみの集団回収量	602,104kg	662,314kg

3 人と自然が共生する社会の創造

[1] 環境にやさしいまちづくり

<重点化施策>

(2) まちを美しくする(環境衛生)

現状と課題

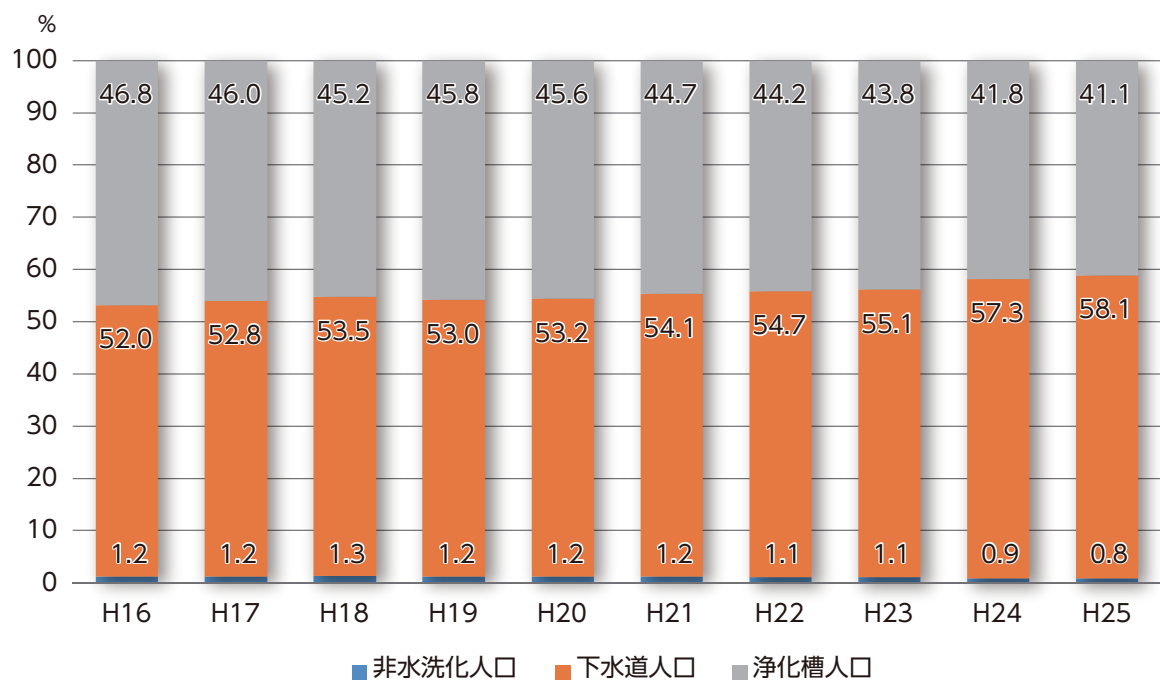
家電や自動車をはじめ各種のリサイクル法が整備されてきましたが、その反面で不法投棄などの不適正な処理は跡を絶たず、環境美化に対する意識も十分とは言えない状況です。そのため、市民や事業者の一人ひとりが、身近な地域から地球環境まで広く環境問題について関心と理解を深め、具体的な環境保全行動を起こすことが必要です。

地球環境の保全には、緑化の推進も求められており、公共施設や民有地などの緑化を促進していますが、現在は人口減少や空き店舗の増加などにより、緑が減少傾向にあるため、市民や地域、事業所との連携により花木によるまちづくりを推進する必要があります。

イベント会場や海水浴場などで、ごみ箱からごみが溢れ出すなど、観光地としての景観を阻害する要因について、主催者や事業者だけでなく、住民自らがまちを美しくするような意識を醸成する取り組みを推進する必要があります。

近年、河川、海域などの水質汚濁問題が顕在化し、水質汚濁の主たる原因として、生活雑排水への対策強化が急務となっています。そして、清掃など管理の行き届かない浄化槽からの放流水は、水質汚濁や悪臭の原因となっているため、浄化槽を設置している家庭及び事業所に対し、適正な維持管理を求める必要があります。また、関係機関との連携を図りながら、地域の状況に応じた水質改善に総合的に取り組む必要があります。

水洗化等の割合



資料：一般廃棄物処理事業実態調査

施策の方向

- ◇ 花木によるまちづくりを推進し、ごみを捨てにくい美しいまちをつくります。
- ◇ 広報あたまや市ホームページなどで、環境情報、環境教育・環境学習に関する情報を提供します。
- ◇ 学校・家庭・事業所などでの環境教育・環境学習を推進します。
- ◇ 環境学習の場と機会の創出を図ります。
- ◇ きれいなまちづくりを推進するため、住民自らがまちを美しくするような意識を醸成する取り組みを推進します。
- ◇ 浄化槽の使用者などに対し、関係機関と連携し、法定検査、清掃、点検保守の実施を積極的に促します。
- ◇ 川や海の水質保全や快適な生活環境を維持するため、下水道の普及・促進を進めます。



施策の内容と主な事業

施策の内容	主な事業
花木によるまちづくりの推進	<input type="checkbox"/> 緑化推進事業 <input type="checkbox"/> 花のまちづくり推進事業
環境情報、環境教育・環境学習に関する情報の提供	<input type="checkbox"/> 全市一斉清掃デー推進事業 <input type="checkbox"/> 空き缶等散乱防止推進事業 <input type="checkbox"/> 環境学習の開催
きれいなまちづくりの推進	<input type="checkbox"/> 環境にやさしい街推進事業 <input type="checkbox"/> 不法投棄防止事業
浄化槽の適正管理の啓発	<input type="checkbox"/> 浄化槽関連法の順守・啓発 <input type="checkbox"/> し尿・浄化槽汚泥の安定的処理 <input type="checkbox"/> 下水道未整備地域への*合併浄化槽（解説P.92）促進
下水道接続の普及	<input type="checkbox"/> 下水道接続の普及・促進

評価指標と目標値

指標	現状	最終目標
環境学習の参加者数	115人	300人
環境学習の開催数	4回	8回
下水道接続件数	12,262件	12,512件

[2] 自然を守り継承し、癒される空間の創出

<重点化施策>

(1) 自然環境を保持する(自然環境の保全)

現状と課題

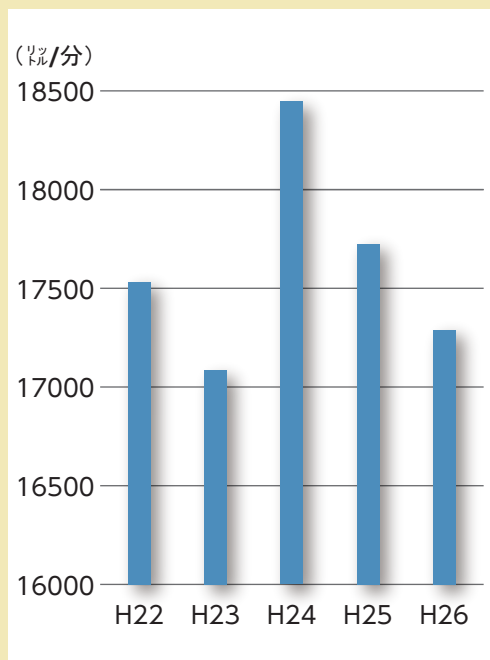
本市は海・山・川の豊かな自然環境に恵まれており、人と自然とのふれあいの場も数多く存在します。また、温泉は市内各地に湧出し、四季を通じて温暖な気候に恵まれた伝統ある観光温泉文化都市として全国に知られています。

これらの豊かな自然は、地域資源として市民共通の財産であり、次世代に確実に引き継いでいくべきものです。また、磨きをかけることにより、世界に誇るべき「宝」として、魅力的な観光資源につながっていきます。

そのためには、一人ひとりが生態系の一員であるという認識のもと、自然環境を保持していく必要があります。市民や事業主に対し、日常生活での省資源・省エネルギー活動等を通じて、自然を大切にすることを高めていくことが求められています。

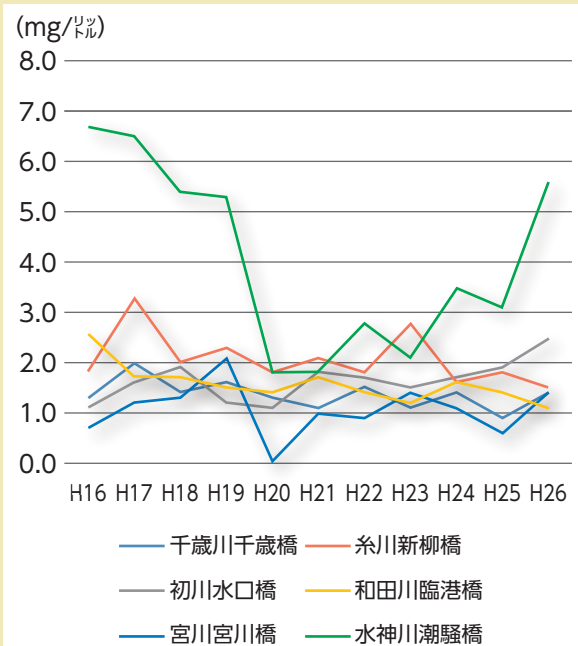


熱海市内温泉湧出量



資料：温泉組合

熱海市内*BOD(解説P.90)経年変化(河川水質)



資料：協働環境課

施策の方向

- ◇ 熱海市特有の恵まれた資源である温泉の保全を図ります。
- ◇ 自然を大切に作る心をはぐくむために、学校や地域に働きかけ、日常生活の中での実践活動を促進します。
- ◇ 学校教育や社会教育において、自然保護の重要性や省エネルギー活動の必要性を啓発し、市民の意識向上に努めます。
- ◇ 森林機能を保つために間伐や植栽などの森林管理を支援します。
- ◇ 生態系に配慮した河川改修を行うと共に、海岸部においては自然環境と調和した整備を行います。



施策の内容と主な事業

施策の内容	主な事業
温泉の保全推進	<input type="checkbox"/> 源泉の適正な維持管理
環境教育の推進	<input type="checkbox"/> *家庭環境マネジメント（解説P.91）事業 <input type="checkbox"/> エコ教室事業
環境保全の啓発推進	<input type="checkbox"/> *アース・キッズ（解説P.90）事業 <input type="checkbox"/> *カーナイダー（解説P.91）啓発推進
環境保全活動の支援	<input type="checkbox"/> 森林保護事業 <input type="checkbox"/> *河川浄化協力員（解説P.91）事業
生物多様性の保全	<input type="checkbox"/> 河川改修事業の推進要望活動

評価指標と目標値

指標	現状	最終目標
温泉湧出量の維持	17,296ℓ/分 (年度末)	現状維持
エコ教室開催数	5回	10回
河川のBOD	平均値 1.95mg/ℓ	平均値 1.4mg/ℓ
河川浄化協力員数	47名	50名

3 人と自然が共生する社会の創造

[2] 自然を守り継承し、癒される空間の創出

<重点化施策>

(2) 豊かな生活空間を創る (緑地・公園・海岸・河川)

現状と課題

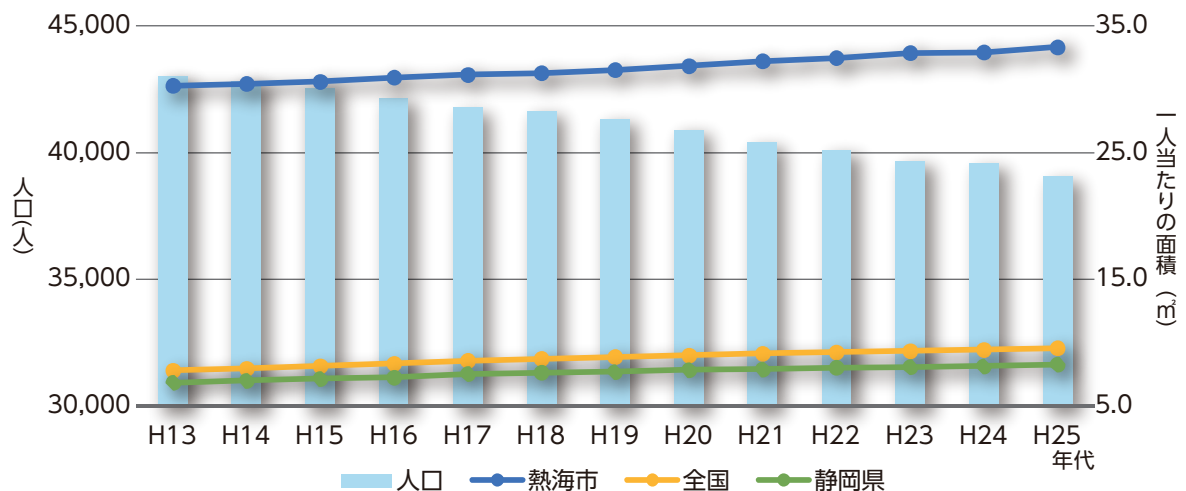
本市には 27 箇所の都市公園等があり、住民一人当たりの公園面積は全国的にも高水準の広さを有しています。しかし、多くの公園が市街地周辺に位置していることや、遊具などの施設の老朽化、樹木管理等の維持費増加により、十分な管理が行き届いていないのが現状であり、利用者が安心して利用できる身近な公園整備が求められています。

また、海岸については、熱海港コースタルリゾート計画を中心とした、魅力ある海岸整備・保全が求められているとともに、大規模地震の発生における津波対策の必要性も高まっています。

河川については、近年の集中豪雨等に対応できる治水機能の改善を図りつつ、安らぎや憩いの場としての良好な景観形成が求められています。



人口と一人当たりの公園面積



資料：都市公園データベース(国土交通省)・日本の統計2015(総務省統計局)・静岡県統計年鑑、熱海市統計書

施策の方向

- ◇ 公園利用の促進、施設管理費の削減を図るため、市民協働による維持管理活動の推進を行い、地域住民に愛され、守り育てられる公園の整備を行います。
- ◇ 公園施設の全体を把握し、長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設の最適な配置、コンセプトを明確にした公園整備を実現します。
- ◇ 市民や観光客がさらなる魅力を感じ、親しまれる海岸環境空間を創出するため、コースタルリゾート計画を推進します。
- ◇ 地震、津波から人命、財産を守るためのハード・ソフト両面での防災対策を推進します。
- ◇ 集中豪雨等の災害に強い河川・水路の改修、整備を推進します。



施策の内容と主な事業

施策の内容	主な事業
公園管理及び利活用	<input type="checkbox"/> 公園緑地の維持管理 <input type="checkbox"/> 公園緑地の整備及び利活用
市民協働の支援	<input type="checkbox"/> 市民協働（ボランティア等）の育成・支援
海岸環境整備の推進	<input type="checkbox"/> 海岸環境整備事業 <input type="checkbox"/> 海岸整備における、国、県への積極的な要望活動
災害に強い河川整備	<input type="checkbox"/> 河川・水路等の改修及び修景整備 <input type="checkbox"/> 河川整備における、国、県への積極的な要望活動

評価指標と目標値

指標	現状	最終目標
公園ボランティアの人数	24人	40人
コースタルリゾート計画（渚地区）整備率	81.13%	85%

3 人と自然が共生する社会の創造

[2] 自然を守り継承し、癒される空間の創出

<重点化施策>

(3) 快適な住環境を創る(生活関連施設)

現状と課題

本市の上水道は、12箇所の自己水源と県営駿豆水道により需要が確保されています。水道施設の老朽化が進む中、水道水を安定的に供給するためには施設の耐震化、更新を早急に進める必要があります。

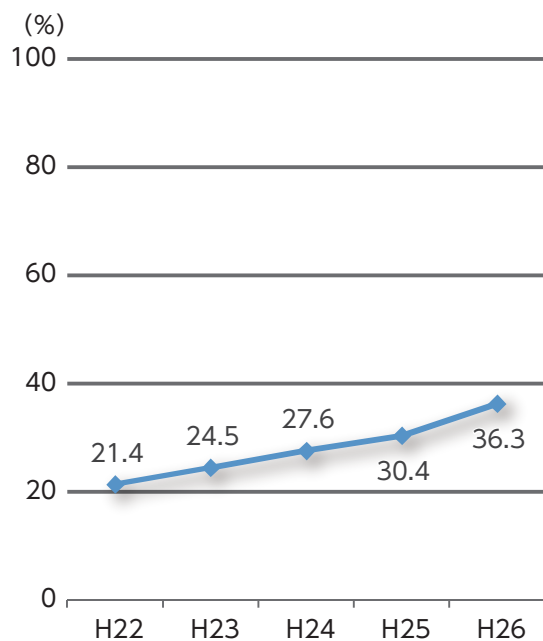
公共下水道については、水質保全や快適な生活環境を維持するために、必要不可欠な施設ではありますが、整備費用が膨大となることから、人口減少、*コンパクトシティ(解説P.92)化が進む中、適切な処理区域、必要に応じた維持管理が必要となります。

市営温泉については、安定供給を維持していくために施設の適正な維持管理が求められています。

公営住宅については、老朽化が進む中、適切な改修を進めるとともに、少子高齢化社会に対応すべく、社会福祉施設を併設したモデル事業の検討や、バリアフリー化の推進を検討する必要があります。

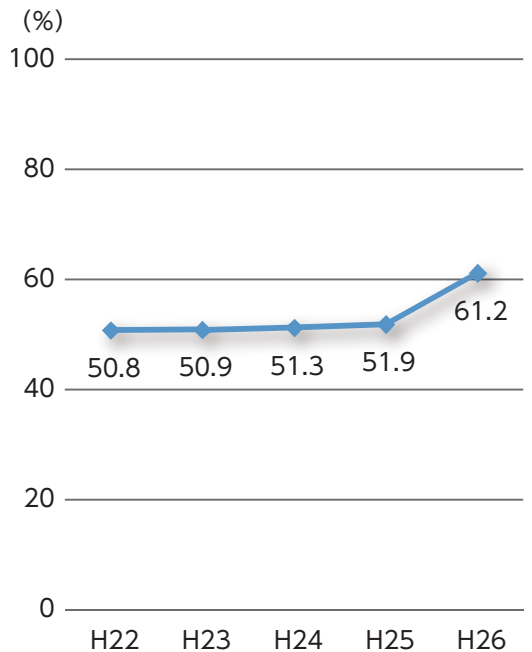
火葬場については、火葬棟、待合棟、葬儀式場ともに建築から20年以上経過しており、老朽化が著しい状況です。火葬炉についても年間約650件(平成26年度)の利用があり、定期点検および修繕工事で延命化を図っております。施設全般の安定運営のためにも計画的に整備することが求められています。

総管路延長のうち耐震適合性を有する水道管の割合



資料：水道温泉課

下水道整備率



資料：下水道課

施策の方向

- ◇ 上下水道施設及び市営温泉施設については、緊急性や重要性、必要性等を総合的に判断し、適正な維持管理を行うとともに、計画的な施設の更新と耐震化を進めていきます。
- ◇ 既存施設を有効に活用し、高齢者に対応した、公営住宅の改修を進めるとともに、若年世代の居住促進を図ります。
- ◇ 火葬場の計画的な施設整備を進めていきます。



施策の内容と主な事業

施策の内容	主な事業
上水道施設の更新・耐震化	<input type="checkbox"/> 【再掲】老朽管の布設替 <input type="checkbox"/> 【再掲】主要な配水池等の改築・耐震化
下水道施設の更新・面整備	<input type="checkbox"/> 処理施設、老朽管の改築・更新 <input type="checkbox"/> 未整備地区の管渠布設
市営温泉施設の適正な維持管理	<input type="checkbox"/> 基本計画の策定 <input type="checkbox"/> 老朽管の布設替
公営住宅の有効活用	<input type="checkbox"/> *公営住宅ストック計画（解説P.92）の利活用
火葬場の整備	<input type="checkbox"/> 火葬場の施設整備

評価指標と目標値

指標	現状	最終目標
水道管路の耐震化率	36.3% (年度末)	46.3%
下水道整備率 (整備面積／全体計画面積)	61.2% (年度末)	62.4%